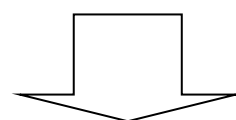


学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
ワークシートの記述量や、小テストの取り組み姿勢等から、学ぼうとする意欲が感じられる。自分の意見を書くことに対する抵抗感も少しずつ減ってきたが、意見の根拠を問われた時に答えられない生徒が多い。また、考えを発信することに苦手意識をもっている生徒が多い。根拠が明確で説得力のある意見を持ち、それを他者に伝える力を付けていくことが課題である。	読書活動や文章の読み取りに対して積極的に取り組む生徒が多い。漢字や文法など、知識・技能の観点で課題の見られる生徒が一定数いる。特に文法での理解が弱い。文章を読み、大まかな内容を捉えることはできているが、記述の際、問いに対して適切な表現ができない場合がある。授業ごとに生徒による自己評価を行っているが、ねらいに対する評価になっていなかったり、表現が漠然としていたりする。	文章を書くことに対して、積極的に取り組む生徒が多い。適切な表現や、漢字の使用、文法上に課題は見られるが、自分の意見をしっかりとっていることはうかがえる。自由意見は得意な一方で、文章を読んで意見を述べるのが難しかったり、具体的な例を挙げたりすることが苦手な部分もある。「話して表現する」経験値が少ない分、「具体化」「適切な表現を吟味」する力が足りない。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読む際、根拠となる表現と自分の意見がしっかりと結び付くように促す方法を工夫する必要がある。 説得力のある発信をするためにはどのような構成や伝え方が有効であるかを提示する方法を考えていく必要がある。 学びを生かして伝える実践の機会を取り入れた授業展開が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章中から意見の根拠となる部分を探して印を付け、可視化するとともに、意見とのつながりが明確になるよう、書いた意見を吟味する時間を確保する。また、思考の整理がしやすくなるようにワークシートのレイアウトを工夫する。 表現方法の異なる解答を複数比較し、検討していくことで、的確に要点をまとめる力を向上させる。発表の活動の際には、構成や伝え方について相互評価を行い、自身の改善点を把握できるようにする。 単元に一度はグループワークや発表をする機会を設け、自分の意見を発信したことにより話し合いが深まったり、広がったりする経験を積み、自信につなげる。生徒が自ら学びの成果を実感できるように振り返りの時間を取り入れる。振り返りを基に、今後の学習において見通しをもつことで学習意欲を向上させる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習に興味・関心をもたせる必要がある。また、文法学習において生徒が受け身にならないような指導上の工夫が必要である。 意見や考えを適切に表現する方法を身に付けるよう教材作成や指導方法を工夫していく必要がある。 授業のねらいをより明確化し、適切な自己評価を行い次の学習へつなげることができるよう指導を工夫していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の合間に漢字の成り立ちについて触れたり、漢字クイズなどゲーム感覚の学習活動を取り入れることで、漢字学習に対する意欲を高める。また、文法上の法則に自分自身で気付かせるような授業展開を取り入れ、積極的に文法学習に取り組めるようにする。 意見をまとめ発表する学習活動を多く取り入れ、問いに対して求められる答えの形式を確認し合うグループワークや、文のねじれや表現のきまりに気付く課題に取り組ませる。 授業のねらいをより具体化・焦点化し、自己評価の観点も同時に提示するようにする。また、具体的に授業を振り返ることで学習内容を整理させ、より深い理解や学習の定着につなげる。また、次の発展的学習への展開を示したり、他教科との関わりを示したりすることで、学習に対する意欲を高める。
3年	<ul style="list-style-type: none"> お互いの文章を読み合ったり、どういう点で指摘したらいいか明確に提示したりする方法を工夫する必要がある。「分かりやすい文章」「説得力のある文章」を考えさせるとともに、実践に生かす技術を身に付けさせる方法を吟味していく必要がある。 話す力を付けていく機会を増やすと同時に、評価の仕方の工夫をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書き終わったら、誤字脱字、文章のねじれ、平仮名の多用を指摘させる時間を十分にとるような授業展開にする。「抽象化」と「具体化」の違いをはっきりさせ、自分の意見を述べる際には、根拠を具体化させる作業を取り入れる。また、多くの作品を紹介することにより、「分かりやすい文章」「説得力のある文章」に触れる機会を設ける。 班活動と、スピーチの指導を充実させる。班活動では「自分の意見をもつ」→「交流」→「学び・変化」となるように活動するにはどうしたらいいか常に考えさせるように授業展開する。スピーチの指導は、長い時間のスピーチを通して「聞き手を飽きさせない」ために、「構成の工夫」を中心に指導する。その中に、「具体的な例」を多く入れることで、「具体化」の理解につなげる。